

漂流軽石回収技術検討ワーキンググループ（第2回） 議 事 概 要

日 時： 令和3年11月16日（火） 15：00～16：30
場 所： 国土交通省10階港湾局会議室（WEB併用）

1. 主な議事

○第1回ワーキンググループでの議論を踏まえて作成した「漂流軽石の回収技術に関する中間取りまとめ」の案について、構成員による意見交換を行った。

2. 主な意見

- 第1回のワーキンググループから、短い期間であったが軽石回収に関する一定程度の知見方法について集約することができた。内容的には必ずしも十分ではないかもしれないが、スピード感を持って段階的にでも港湾管理者や漁港管理者等の関係者に情報提供することが重要である。
- オイルフェンスを使用して集積する方法について、オイルフェンスは1ノット以上のスピードで動かすと油でさえスカートの下から抜けてしまう。最終とりまとめにおいては、オイルフェンスを軽石の集積に用いる場合にはゆっくり動かすなど、使用上の注意点を具体的に記載する必要がある。
- 小型船と回収器具を用いた回収方法について、中間とりまとめにおいてはあくまでも小型の船外機船で牽引できる範囲で実施した実証試験の結果を取りまとめたものであることから、最終とりまとめにおいては、牽引する船舶等の条件によっては、回収器具の規模や効率が異なる可能性があることを明記しておく必要がある。
- 軽石を回収するタイミングについて、港内に入ってくる前に回収する必要がある場合や、港内に入ってしまった軽石により船舶の航行に支障を来しているため早急に対応しなければならない場合など、様々な状況が想定される。このため、状況に応じて多様な選択肢の中から回収方法を検討することができるよう、民間事業者等からの提案等を含めて、実現可能性の高い技術をできるだけ前広に整理し、港湾管理者や漁港管理者等に情報提供する必要がある。
- 海からアプローチして回収作業を実施する場合、曳船等の作業船における機関トラブルをいかに回避するかがポイントとなるため、関係団体の知見を活かしつつ、軽石が漂流する海域においても曳船等の作業船が確実かつ安全に運航できる対策を検討する必要がある。

以 上